

## 平成30年度 第11回部長会議 会議記録 要旨

開催日時：平成31年1月4日（金） 11時30分から11時45分まで

開催場所：市長公室

出席者：牧野市長、佐藤副市長、代田教育長、寺澤総務部長、今村総合政策部長、北沢リニア推進部長、塩沢リニア推進部参事、松下市民協働環境部長、清水健康福祉部長、遠山産業経済部長、寺田産業経済部参事、小平建設部長、奥出建設部参事、前澤上下水道局長、宮内市立病院事務局長、木下市長公室参与、吉村危機管理室参与、赤羽目会計管理者、吉川議会事務局長、三浦教育次長、櫻井社会教育担当参事、関島消防長、細田秘書広報課長、串原企画課長

### 会議内容

#### 1 理事者あいさつ

##### <市長>

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

私からのあいさつは、先ほどの仕事始めの式で申し上げた通りである。皆さんにおかれては予算編成が本格化する中で、来年度への準備を怠ることなく進めていただくことを改めてお願ひ申し上げる。また、今年の漢字一字を「改」と申し上げたが、改めるべきものは何もないという人はいないと思うので、ぜひ改めるべきものは改めるという意識で取り組んでいただきたい。

##### <副市長>

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

年末の紅白歌合戦を見て、平成最後の紅白歌合戦は昭和の歌で締めくくられるのかということを感じた。平成の時代は昭和の時代を超えられなかったのかと思うところもあったが、そういうことではなく、歌が持っている本質がしっかりとあるので時代を超えて歌い継がれるのかなということも思ったところである。

今年は元号が変わるということも含めて変化がある年だと思うが、こういう時こそ本質をつかむということが大事であると思う。そのためには、原点に立ち返ることや歴史を振り返ることが必要である。市長から話のあった「改める」ということと違うようにも見えるが、改めるためにはやはり本質をつかんで改めていくことが大事なのではと思う。この仕事は誰のための、なんのための仕事なのかということもきちんと考えて仕事に取り組んでいただきたい。

##### <教育長>

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

年末の教育委員会のあいさつの中で、「多事争論」ということを話させていただいた。この多事争論はもともと福沢諭吉の言葉である。今から約150年前、ヨーロッパ使節団を組みイギリスの議会を視察した時に、議会の中で与党と野党が対峙してケンカをしているのを見たが、議会が終わった後は同じテーブルでお酒を酌み交わし談笑しているのを見て驚愕したといわれている。これがまさに自由だということを感じ、「自由の気風は多事争論の間にある」という言葉を残した。

果たして、飯田市にこのような気風があるかということも考えた時に、飯田の子どもたちは自分の意見が間違っていた時、反論することや堂々と言うことが得意ではないと感じている。これは子どもたちの問題ではなく、飯田の地域柄として多事争論が苦手な空気があるのではと思う。これからリニアが本格化してくる時に様々な意見を調整する必要があると思うが、まずは相手方との信頼関係を築くこと、そのうえで共通の目的・目標を見出して、さらには互いの意見をしっかりと聞き、どれだけ認め合えるかというように進めないで多事争論の文化を育むことは難しいと考えている。これから立場や意見の違いが出てくると思うが、それは飯田市を高めていく大事なプロセスで、一つ一つ丁寧に取り組むことを意識していただきたい。

#### 2 だるまの目入れ式

#### 3 その他、連絡事項

#### 4 閉会